

平成23年度 学校自己評価システムシート（県立羽生高等学校）最終版

目指す学校像	不登校等、多様な問題を抱えた生徒の基礎学力・集団生活力を養い、社会的自立を実現するとともに地域の生涯学習機関として貢献できる学校。
--------	---

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 生徒として望ましい授業態度の育成に努めるとともに、少人数の良さを生かした指導方法を工夫・共有して、基礎学力の向上と問題解決力の充実に推進する。 2 学校自己評価システムの効果的な活用を図り、広報活動の一層の充実に努め、地域に開かれた学校づくりを推進する。 3 生徒に基本的な生活習慣を身につけさせ、社会性を培い、規律ある明るい校風づくりを推進する。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※ 学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	9名
	事務局（教職員）	11名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (1 月 1 6 日 現 在)		
年 度	目 標	評 価 項 目	具 体 的 方 策	方 策 の 評 価 指 標	評 価 項 目 の 達 成 状 況 (H22/H21)	達 成 度	次 年 度 へ の 課 題 と 改 善 策
1	<ul style="list-style-type: none"> ○基礎学力や学習意欲に差がある生徒を抱えた中、学校に対する期待も年々多様化してきている。 ○日々の授業の大切さを十分認識できていない生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業改善による学力の向上 進路実現の明確化 	<ul style="list-style-type: none"> ①教育計画・授業内容を工夫する。 ②職員研修会を充実する。 ③授業公開を拡充する。 ④授業実践を集約・発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①生徒アンケート ア「授業は分かりやすいか」 イ「教え方に工夫があるか」 ②職員研修会のアンケート ③授業公開期間中の来校者数 ④教員アンケート ア「授業の改善点は何か」 イ「学力向上のための取り組みは何か」 	<ul style="list-style-type: none"> ①肯定的評価率 ア 54%(60%/58%) イ 61%(70%/65%) ②「評価は出欠を重視する」 ③43名：保護者 39名 その他 4名 ④ア「授業に臨む準備、提出物等の徹底に効果があった 76%」 イ「遅刻・携帯電話の操作・居眠り等の生徒を粘り強く指導した」 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○学校への多様化する期待に応える →授業、部活動、行事等から「生徒が積極的に学校に行きたいと思えるきっかけとなるような何か」ができないか研究する。 ○授業の大切さを認識させる。 →進路実現に向けて年次ごとに段階的系統的な受講指導、進路指導を計画する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○本校の教育の特色を伝える広報活動を充実させる必要がある。 ○生涯学習機関としての役割を更に発展させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報発信機能の多様化 開かれた学校づくり 	<ul style="list-style-type: none"> ①本校HPの新システムの活用及びPRをする。 ②学校訪問の改善を図る。 ③学校説明会の充実及びPRをする。 ④中学生向け個別相談会を充実する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ア HPのアクセス数 イ 地域アンケート集計結果 ウ 勾玉祭来校者数と分析 ②「学校満足度」調査 ③説明会参加者アンケート集計結果 ④参加人数 	<ul style="list-style-type: none"> ①ア 月平均 6232件(4700件) イ HPから情報を得た率 3% ウ 来校者数 318名(316名/286名) ②「学校に満足している 55%」 ③「概要がよくわかった 99%」 「体験授業が楽しかった 89%」 ④参加人数 25組(11組) 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○広報活動を充実させる。 →今年度制定したマスコットキャラクターを積極的に活用する。 →学校説明会の時期・方法を検討する。 ○生涯学習機関を発展させる。 →地域の方に興味を持ってもらえるような講座を検討する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○不登校等、対人関係で課題を抱えている生徒がいる。 ○社会性に欠けた生徒、生活習慣の改善が必要な生徒がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育相談の充実 生徒指導の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> ①特別支援教育体制支援事業を推進する。 ②スクールカウンセラーを活用する ③職員研修会を実施する。 ④「保護者の集い」の実施・方法を工夫する。 ⑤教育相談関係諸機関と連携する。 ⑥学習支援員を活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①ア 生徒の個別相談件数 イ 保護者アンケート集計結果 ウ 中退者数と分析 ②対応者数 ③研修会の実施 教員アンケート 「教育相談として取り組んでいることは何か」 ④事後アンケート ⑤連携した回数 ⑥生徒のアンケート結果 	<ul style="list-style-type: none"> ①ア 相談件数 60件 イ 生徒理解・指導に関する肯定的評価率 86%(84%/83%) ウ 中退者率 11%(8%) ②対応者数 28名 ③「分掌・年次と連携が取れた 85%」 ④「卒業生の保護者の話が聞きたい」 ⑤連携4回：医師、特支コーディネーター教育センター、児童相談所 ⑥対応生徒数 90名(119名) 「外国籍生徒の学習指導や悩みの相談等に対応してくれた」 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○課題を抱えている生徒への対応を工夫する。 →年次主任を中心に年次で情報を共有し、各関係機関と協力して問題に対処していく。 ○社会性に欠けた生徒、生活習慣の改善が必要な生徒への指導を徹底させる。 →生徒の校外への活動を更に推進する。

学校関係者評価
実施日 平成24年 2月 3日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<ul style="list-style-type: none"> ・授業は分かりやすいかという問いに対する肯定評価率が下がったというが、数値は指標であって目的ではない。成果が数値で表れなくても努力している。引き続き、長い目でゆっくりと待つ心で教育してほしい。 ・ほとんどの授業をゆっくり丁寧に指導してもらっているが、「授業スピードが速い」「板書が読みづらく説明が聞きづらい」「授業の途中で脱線して先に進まない時がある」と感じている生徒もいる。 ・夜間部の授業で、理数系の科目がよく分からないので、補習をやってほしい。 ・勾玉祭で、クラスの催しに積極的に参加出来ないでいる生徒への配慮を、もう少ししてほしい。 ・「羽生高校はこういう高校だ」というものを作ってほしい。 ・自転車の乗車マナーについて、交通安全教室を開いてもらいたい。 ・全ての授業講座を地域住民に開講してほしい。 ・何か言われただけですぐ傷ついてしまうのは、生徒と先生との関係が希薄になってきているからではないかと感じられる。 ・学校はすぐには変わらない。当たり前のことを確実にやっていくこと、地道に活動すること、を続けていってほしい。 ・社会でのマナーは小さい頃から言われてきているはずだ。生徒同士が注意し合える関係を築ければいい。昔が良くて今が特別悪いというわけではない。 ・生徒と直接意見交換することはすばらしいことだと思う。これからも積極的に生徒の意見を取り入れて、指導に生かしてほしい。